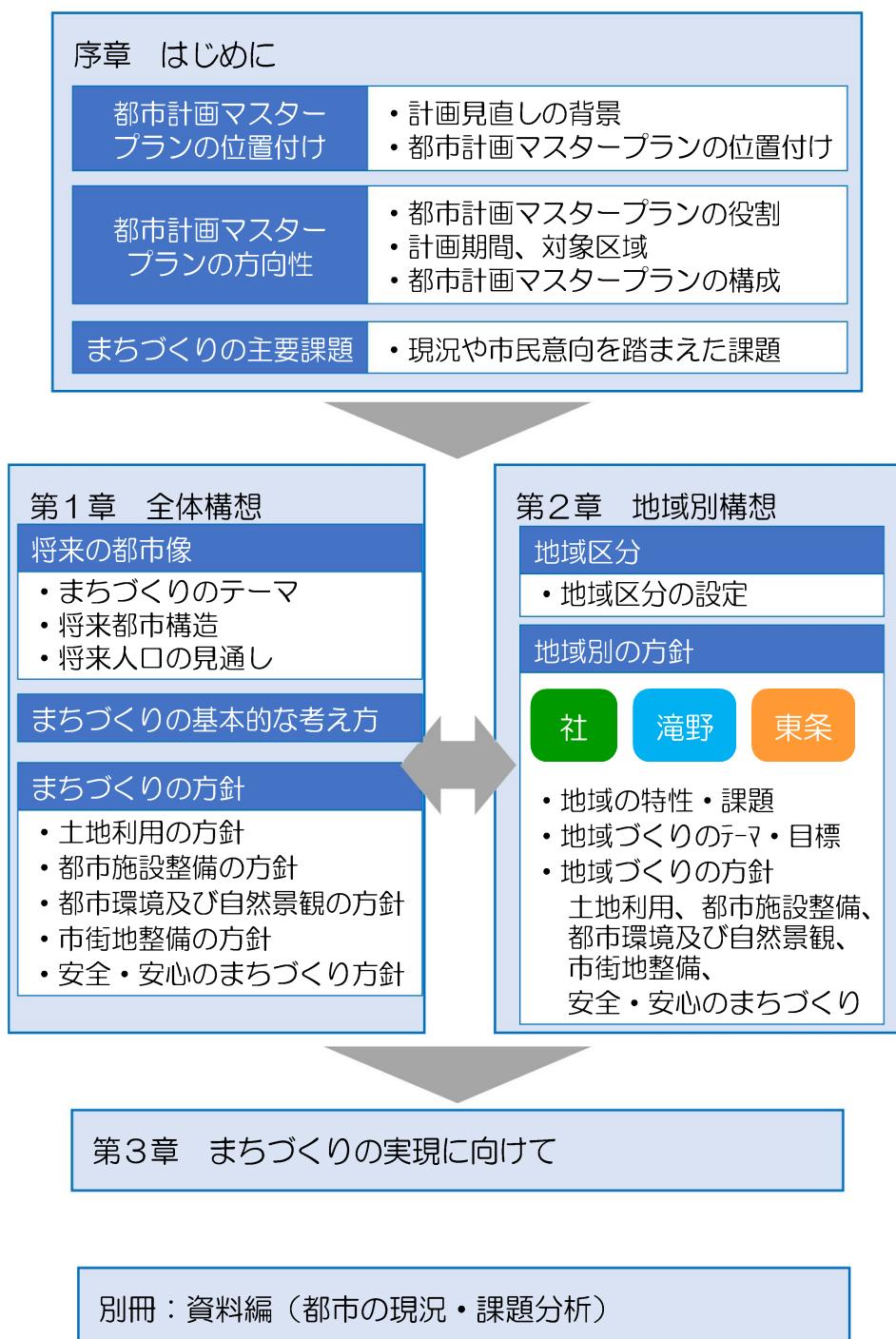


4) 都市計画マスター プランの構成

都市計画マスター プランは、大きく分けて、位置付け等を示す「はじめに」、市全体のまちづくりの方向性を示す「全体構想」、地域別のまちづくりの方向性を示す「地域別構想」、都市計画マスター プランを実現していくための「まちづくりの実現に向けて」の4つで構成しています。

地域別構想では、市域を3地域に分けて、地域別にまちづくりの方向性を示します。



■都市計画マスター プランの構成

3. まちづくりの主要課題

上位・関連計画の方向、本市の現況、市民の意向、現行都市計画マスタープランの進捗評価等を踏まえて、本市を取り巻く「まちづくりの課題」を検討しました。

- ・まちづくりの主要課題は、現況分析や、現行都市マスの進捗評価結果等を踏まえて、
現在検討中
- ・詳細は、【資料3】に整理

加東市の現況・課題について

1. 現況・課題の整理

加東市都市計画マスタープランの見直しに向けて、加東市の現況、現行の加東市都市計画マスタープランの取組内容に係る現況と課題を把握し、将来に向けた方針を示すため、以下の調査を実施しました。

調査①：都市の現況調査

- ・都市の現況を把握するため、都市構造の評価に関する客観的な指標で調査・分析

調査②：現行都市計画マスタープランの進捗状況

- ・ヒアリングシートを用いて現行計画の進捗状況を各課にヒアリングし、事業の実施状況や現在の課題、今後の方針を把握

調査結果（概要）を以下に報告します。

（1）都市の現況調査

調査結果を以下にまとめます。

■都市の現況調査 調査結果のまとめ

分類	現況・課題	
人口		<ul style="list-style-type: none"> ・総人口は維持傾向だが、将来的な減少が懸念される。 ・地域別の近年の人口動向は、社地域は微減、滝野地域は増加、東条地域は微減傾向。 ・滝野地域ではH27年にDIDを形成。 ・東条地域では他地域よりも高齢化が進んでいる。 ・中山間地、既存集落での人口減少やコミュニティの縮小が懸念される。 ・当面は高齢者が増加する。⇒超高齢社会に対応したまちづくりが必要。 ・通勤流入が多く、工業団地等が通勤先として選ばれていると考えられる。
土地利用	都市的 土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・都市的土地区画整理事業は市街化区域等を中心に拡大している。 ・市街地内の幹線道路の沿道や、Bio周辺に大型小売店が立地。 ・施設周辺の人口密度の低下により、将来的な施設撤退が懸念される。 ・4つの工業団地はいずれも用地が完売。⇒新たな用地の確保が必要。 ・社・滝野地域におけるまちなか及び市内別荘地を中心に空き家が多い。

分類		現況・課題
	自然的 土地利用	<ul style="list-style-type: none"> 特別指定区域（地域活力再生等区域）を37地区で指定。⇒いずれも地縁者の住宅区域であり、集落人口の減少を将来的に抑制するには新規居住者の住宅区域等の検討が必要。 農地の減少が緩やかに進行、農家の減少は顕著。⇒担い手の確保が必要。
都市施設	道路・ 公共交通	<ul style="list-style-type: none"> 市内幹線となる都市計画道路に未整備路線が残る。⇒必要性を十分に検証した上で、必要性が高い路線については整備することが必要。 公共交通は国道・県道を軸としたエリアでカバーしているが、自家用車に依存したライフスタイルが主流であるため、路線の廃止や運行便数の減少が発生している。 比較的居住が進んでいる市街化調整区域や用途無指定の地区で公共交通空白地が見られる。
	公園・緑地	<ul style="list-style-type: none"> 街区公園や近隣公園、広域公園等が立地し、一定充実している。
	下水道 ・河川	<ul style="list-style-type: none"> 下水道の水洗化率は90%を超えており。 加古川は、滝野地域において、国により築堤や河道掘削等の緊急対策が実施されている。
安全・安心		<ul style="list-style-type: none"> 市内の主要な河川沿川の水害、中山間地の土砂災害に十分な警戒が必要。 行政・防災関係機関が、自主防災組織と連携し、市民や地域の防災意識の向上を図ることが必要。

(2) 現行都市計画マスター プランの進捗状況

調査結果を以下にまとめます。

■現行都市計画マスター プランの進捗状況 調査結果のまとめ

			実施状況・成果	課題	今後の方針
土地利用	都市的 土地利用	商業・業務地	・社地区の国道175号沿道、Bio周辺に店舗が立地 ・社地区に一般保留区域を設定	・Bio周辺は、大幅な都市機能の充実には至っていない	・バスターミナル整備を推進し、まちの拠点形成を図る
		近隣商業地	・既存商店街によって取組が行われている	・後継者不足 ・集客力、魅力の低下	・商工会と連携し商店街を支援
		工業地	・工業団地の完売	・未操業事業者が残る	・早期操業の促進
		その他の工業系用地	・新たな工業団地の候補地を調査・検討中	・法規制等の問題、労働力の確保	・計画的、効率的に事業を推進
		住宅地	・法令に基づく規制で住環境を保全 ・民間により宅地開発が進んだ	・公共事業可能な規模の用地がない	・市街化区域内の農地は民間による開発を誘導
	自然的 土地利用	農村環境保全地	・天神東挾鹿谷土地区画整理地内は地区計画により土地利用を誘導	・天神東挾鹿谷土地区画整理事業の保留地売却が進まない	・保留地の積極的な営業活動を行い地区計画により土地利用を誘導
			・空家バンクの創設	・滝野地域には密集市街地が残る ・全市的に空家が活用できていない	・密集市街地の対策検討 ・制度PR、地域と連携した空家対策
		自然環境保全地	・特別指定区域（地縁者住宅、駅・バスターミナル等周辺区域）を指定 ・農地流動化、経営所得安定対策、農業機械の補助事業等を実施	・地縁者住宅の特別指定区域は、対象者に制限がある ・担い手の不足や耕作放棄地の増加	・特別指定区域の変更や、新規居住の住宅区域を検討 ・地域農業活性化ビジョンに基づき農業振興施策を実施
		レクリエーション地	・森林管理巡視員による森林管理	—	・継続的に巡視
			・県立播磨中央公園等、レクリエーション施設を安定的に利活用	・新たな魅力を見出せていない	・観光地再生の取組により地域の魅力向上を図る

			実施状況・成果	課題	今後の方針
都市施設 (交通ネットワーク)	道路の整備	広域幹線道路の整備	<ul style="list-style-type: none"> 国道 372 号 ((都) 社外環状線) の整備完了 (仮称)南北道路を検討中 	<ul style="list-style-type: none"> 国道 372 号の自歩道整備の実績なし (木梨・藤田地区) 他市との調整・協議に時間を要する 	<ul style="list-style-type: none"> 国道 372 号の自歩道整備の要望 (仮称)南北道路の調整を進める
		都市幹線道路（主要地方道）の整備	<ul style="list-style-type: none"> 神戸加東線（大畑地区内）整備完了 小野藍本線（厚利地区内）整備中 駅～市街地間の移動は、国道 372 号バイパス整備により円滑化 	<ul style="list-style-type: none"> 未整備区間の整備にあたっては地権者の同意・協力が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 国道 372 号河高ランプのフルランプ化と県道整備早期完了に向け、県に要望・協力していく
		地域間幹線道路（一般県道）の整備	<ul style="list-style-type: none"> 東古瀬穂積線は整備済み 厚利社線の歩道整備を要望中 	<ul style="list-style-type: none"> 歩道未整備箇所の地権者同意に時間を使っている 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き整備を要望
		生活道路（市道）の整備	<ul style="list-style-type: none"> 各路線で整備済みまたは整備中 	<ul style="list-style-type: none"> 大門北野線の延伸計画は、再度検討する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 市内道路ネットワーク計画の中で再検討
		都市計画道路の整備	<ul style="list-style-type: none"> 市街地内の都市計画道路については概ね改良済又は改良中(滝野梶原線) 	<ul style="list-style-type: none"> 中央幹線（主）小野藍本線）は地権者同意に時間を要している 	<ul style="list-style-type: none"> 県道について、県へ整備を要望 必要に応じて見直しを検討
	公共交通の整備	鉄道の利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> 各駅でスロープ、点字ブロック等を設置 社町駅前に駐車場・駐輪場を整備 バスのダイヤ改正により JR との連絡性向上 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が少なくバリアフリー化には至っていない（滝駅） 駅前広場の整備には至っていない 電車の増便はされていない 	<ul style="list-style-type: none"> 電車と路線バスの連絡性の向上など利便性の向上に努める
		高速バスの利用環境の向上	<ul style="list-style-type: none"> 高速バスの運行拡充をバス事業者に要望 滝野社 IC の公衆トイレ改修、滝野社 IC 北側に駐輪場を設置 	<ul style="list-style-type: none"> 乗務員不足により大阪等への増便はされていない 	<ul style="list-style-type: none"> 高速バスの利便性の向上、待合環境の改善
		地域路線バスの運行継続の確保	<ul style="list-style-type: none"> 周辺市町と連携しながら地域路線バス（民営バス）を確保 加東市地域公共交通活性化協議会を設置 自主運行バスを運行している 	<ul style="list-style-type: none"> 民営バス事業者への補助金額の増加 住民、交通事業者、行政の連携円滑化 	<ul style="list-style-type: none"> 民営バスの利用を促進 地域公共交通活性化協議会を開催し、市民と協働により総合的な交通サービス（交通システム）を協議する

			実施状況・成果	課題	今後の方針
都市施設 (公園・緑地)	都市公園の整備	レクリエーション機能や防災機能の充実	・滝野総合公園体育館の避難所指定、社中央公園ステラパークの飲料水貯水タンクの設置	・事業規模が大きいため、滝野総合公園や起勢の里の全域供用は計画を立てるまでに至っていない	・公園施設の維持管理
		憩える公園の整備	・東条地域、南山地区の星の里公園・児童公園を都市公園として供用	—	・公園施設の維持管理
	身近な公園広場の整備	公益施設と一体となった公園整備	・市内全域に公園・広場を整備	・維持管理の負担の増大	・公園・広場の必要な個所のみ整備
	特色ある公園・緑地の整備	播磨中央公園・やしろの森公園の保全	・県が維持管理を行っている	—	・適正な維持管理の継続を要望
		東条湖周辺の新規施設誘導	・既存施設の改修、活用	・新規の施設立地誘導は困難	・現存する施設の適正な維持、付加価値向上
	市街地内緑地の推進	市街地内や工業団地の緑化	・市街地内緑化は事業実績なし ・工業団地については、事業者に緑化を促し敷地内緑化を図った	—	・工業団地では、操業時に適正な緑化整備を促す
都市施設 (下水道・河川)	下水道の整備	公共下水道の整備	・長寿命化計画を策定し、計画的に管理、更新中	・雨天時に汚水管渠への浸入水が増加	・既存施設の改築・更新 ・管渠への浸入水の調査・対策
			・安取雨水ポンプ場を整備中 ・浸水のおそれがある区域の雨水排水路を整備	・計画規模を大幅に上回るゲリラ豪雨の増加等により浸水リスクが高まることが予測される	・既設水路等のストックを活用しながら雨水排水施設の整備
		集落等における下水道施設の整備	・農業集落排水やコミュニティ・プラント等の処理区域の整備は完了し、加入を促進した結果、水洗化率は90%を超えている	・将来的に農業集落排水やコミュニティ・プラントの更新時期が集中するため経営の効率化が必要	・経営の効率化を図るため農業集落排水やコミュニティ・プラントの処理施設を公共下水道へ接続
	河川の整備	主要河川の整備	・国により加古川の河川改修を実施	・既存の家屋の浄化槽設置がなかなか進まない	・補助金のPRを強化し、設置を促進
		多自然型河川づくり	・事業実績なし	—	・県へ管理河川の整備を要望

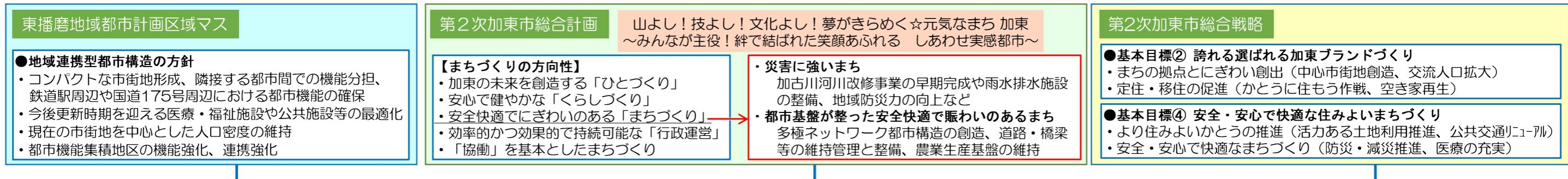
			実施状況・成果	課題	今後の方針
都市施設 (その他)	上水道の整備	経営基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・水道事業経営戦略を策定、次期水道ビジョン策定中 ・水道事業の一部を民営化 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の施設更新や耐震化など多額のコストが必要 ・事業の効率化や収益確保等により、経営の健全化が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・コストの縮減と費用の平準化 ・料金体系の見直し
		老朽化施設の更新と維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・浄水場の統合を計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽施設の更新や耐震化が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・広沢浄水場と滝野浄水場の統合、老朽施設の統廃合の検討 ・基幹管路の耐震化
	ごみ・し尿処理	ごみ処理体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・小野加東環境施設事務組合への加西市の加入、滝野地域が加入予定 ・小型家電の拠点回収の実施 ・上中地区での資源ごみ積替・保管施設の整備（H28）、リサイクルヤード稼働（H29） 	<ul style="list-style-type: none"> ・広域化を見据え、分別収集体制とごみ処理施設の総合的な整備が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・広域処理体制を整える ・分別収集体制とごみ処理施設の総合的・一体的な整備
		汚物処理施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備に向けた調査実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・汚物処理のあり方を検討評価し、合理的かつ経済的な施設整備方針をまとめる必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・適正かつ効率的に処理するための施設整備
	教育・文化施設	小・中学校施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・東条地域で小中一貫校の整備に向け基本設計完了 	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた学習環境の維持、よりよい学びと成長の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・3地域での小中一貫校の整備
	医療・社会福祉施設	医療・福祉体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・小児医療や在宅医療の確保など、市民が安心できる医療体制づくりに努めている ・地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・小児救急医療や周産期医療、がん医療、在宅医療等の確保 ・地域の特性に応じた地域包括ケアシステムの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域完結型医療体制の整備 ・住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供できるシステムの確立
	墓地	墓地の設置や廃止	<ul style="list-style-type: none"> ・墓地の設置や廃止の申請時の審査・指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢の変動を見据え、墓地の長期的な需要量を見込んだ対応が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情に応じた適正な指導による墓地環境の確保

			実施状況・成果	課題	今後の方針
都市環境及び自然景観	都市環境の形成	市街地環境・景観の向上	・地区計画や建築協定、県条例に基づく景観形成地区等を適切に運用	・建築協定等は新たな動きはなし	・引き続き制度を活用し市民と協働により景観形成を図る
	自然景観と歴史的空間	レクリエーション地における景観の保全・活用	・観光イベントへの参加 ・各祭りを通じてレクリエーション環境を創出 ・東条湖周辺は県条例に基づき規制	・市観光協会と連携したイベント実施が必要	・市観光協会の自立促進
		田園集落地環境・景観の維持・保全	・県の緑条例に基づき規制	—	・引き続き規制
		山林・丘陵地環境・景観の維持・保全	・環境保全型農業直接支払交付金事業を実施	・交付金事業の件数が伸びない	・引き続き景観の保全に努める
		山林・丘陵地環境・景観の維持・保全	・森林法に基づき、継続的に伐採届の提出等を指導している ・森林・多面的機能發揮対策交付金を活用、自然学習等の活動を支援（下久米地区）	・兵庫教育大学周辺等の丘陵地斜面緑地にて、太陽光発電設備の整備が懸念される	・森林法に基づいた伐採届の提出等を指導 ・交付金を活用した支援の実施
		水と緑のネットワーク形成	・山地部の保全、河川区域内環境保全事業の実施	・高齢化による活動参加者の減少	・引き続き地域へ実施を依頼
安全・安心	防災拠点の整備	防災拠点の施設整備	・指定避難所にLPガス発電機を整備	—	・災害時物資集積地や避難場所となる公共広場の整備（認定こども園の隣） ・LPガス発電機の整備(H30)、加古川右岸・滝野南小隣接地への防災備蓄倉庫の整備 (H31)
		避難路の建築物不燃化や緑地帯の確保	・市街化区域等で建築基準法22条に基づく防火指定	—	・引き続き市街化区域等では法令に基づき対応する

			実施状況・成果	課題	今後の方針
安心・安全	防災体制の強化	緊急情報システムの充実	・かとう安全・安心ネットや防災行政無線等の整備	—	・行政防災無線の適切な維持管理
		市民の防災体制の強化	・ハザードマップの周知 ・自主防災組織の活動を支援	・ハザードマップへの新たな情報（土砂災害特別警戒区域、L2洪水等）の反映が必要 ・地域の防災意識向上が必要	・ハザードマップ更新 ・市民・地域との協働による地域防災
	日常生活における安全性の確保	通学路の安全対策や防犯情報の発信	・通学安全プログラムにより通学路の安全対策を順次実施	—	・引き続き交通安全施設を整備
			・警察による防犯情報の発信	・地域の防犯意識向上が必要	・防犯意識向上のため、安全安心のまちづくり市民大会の開催 ・警察との連携
	建築物の不燃化・耐震化、緑地の確保	・旧滝野庁舎：外壁点検・修繕を実施 ・旧東条庁舎：新館の取り壊し ・耐震改修計画に基づく耐震化、不燃化	・公共施設の老朽化による修繕箇所の増加	・民間建築物は、耐震診断後、適切な改修に結び付いてないものがある	・老朽化した施設の適切な修繕と維持管理 ・民間建築物の耐震化促進

(3) まちづくりの主要課題

先に整理した調査結果や上位・関連計画の方向等を踏まえて、まちづくりの主要課題を整理しました。



分類	都市の現況等調査の結果	都市マス進捗評価結果・各課の意向	【まちづくりの主要課題】
人口	<ul style="list-style-type: none"> ・総人口は維持傾向だが、将来的な減少が懸念される。 ・地域別の近年の人口動向は、社地域は微減、滝野地域は増加、東条地域は微増傾向。 ・滝野地域ではH27年にDIDを形成。 ・東条地域では他地域よりも高齢化が進んでいる。 ・中山間地、既存集落での人口減少やコミュニティの縮小が懸念される。 ・当面は高齢者が増加する。⇒超高齢社会に対応したまちづくりが必要。 ・通勤流入が多く、工業団地等が通勤先として選ばれていると考えられる。 	<p>※人口フレームは目標を達成。</p>	<p>●市全体での人口減少や高齢化への対応</p> <p>⇒人口減少が見込まれる中で都市機能や施設を維持し、市街地の活性化を図るには、都市構造を見直し、必要な都市機能を誘導・集約してその周辺において人口密度を維持するような都市構造への転換が必要。</p> <p>⇒高齢者の増加等、将来の人口構成を見据えた適切な都市機能の誘導が必要。</p> <p>⇒特に中山間地では人口減少が懸念されるため、既存の集落を中心とした誘導・集約の考え方が必要。</p>
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・都市的 ・土地利用 <ul style="list-style-type: none"> ・都市的 ・土地利用 <ul style="list-style-type: none"> ・自然的 ・土地利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・Bio周辺は大幅な都市機能の充実までは至っておらず、都市機能や生活機能の充実、周辺部の秩序ある市街地形成が必要。 ・Bio周辺に交流の中核となる新たな交通施設（バスターミナル）の整備を推進。 ・天神地区（地域生活拠点）は基盤整備と土地利用が進む。積極的な営業活動を行い、地区計画に基づき土地利用を誘導することが必要。 ⇒（上記3点を踏まえて）JR駅前から中心拠点～地域生活拠点間の連携による持続可能なまちづくりの推進が必要。 ・商店街の活性化が必要。 ・新たな工業団地用地の創出に向けた検討、事業推進が必要。 ・加古川沿川の密集市街地の対策等、住宅地の住環境整備が必要。 ・地域と連携しながら空家、空施設等の利活用の検討が必要。 	<p>●本市のポテンシャルを活かした都市機能・産業・人口の集積</p> <p>⇒広域交通の利便性や既存施設の集積状況、工業団地等良好な働く場としての強みを活かして、様々な都市機能、産業の集積につなげていくことが必要。</p> <p>⇒広域交流の拠点としての機能向上に向けた交通施設の整備、働く場としての強みを活かした新たな工業団地の創出、都市機能が集積しつつある中心拠点や良好な都市基盤が整備された地域生活拠点における都市機能の誘導、充実した公園・緑地や市街地背後の自然環境に囲まれた暮らしやすい住環境など、本市のポテンシャルを最大限に活かすことが必要。</p>
自然的			<p>●拠点間の連携と近隣都市との連携を実現するネットワークの形成</p> <p>⇒広域道路網の充実と公共交通網の充実によるネットワークの形成により、多極ネットワーク型都市構造の実現と過度に車に依存しない交通体系を実現し、持続可能なまちづくりを展開することが必要。</p> <p>⇒他市町との連携を強化するとともに、既存のレクリエーション施設等を活用し、新たな人の流れをつくることが必要。</p>
都市施設	<ul style="list-style-type: none"> ・道路・公共交通 ・公園・緑地 ・下水道・河川 ・都市環境自然景観 ・安全・安心 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内幹線となる都市計画道路に未整備路線が残る。⇒必要性を十分に検証した上で、必要性が高い路線については整備することが必要。 ・公共交通は国道・県道を軸としたエリアでカバーしているが、自家用車に依存したライフスタイルが主流であるため、路線の廃止や運行便数の減少が発生している。 ・比較的居住が進んでいる市街化調整区域や用途無指定の地区で公共交通空白地が見られる。 	<p>●既存ストックの適切な維持管理と利活用</p> <p>⇒既存のインフラや公共施設の老朽化が進んでいるが、適切に管理を行っているところであり、今後も長期的な視野のもと、必要な修繕や維持管理を図っていくことが必要。</p> <p>⇒市街地内の空き家や商店街における空き店舗が増加しており、これらの利活用を図るとともに、既存の公園やレクリエーション施設についても付加価値向上を図り、施設の魅力を向上していくことが必要。</p>
			<p>●市街地整備と運動した安全・安心なまちづくり</p> <p>⇒現在国・県と連携して取り組んでいる加古川河川改修事業の早期完成を図るとともに、雨水排水施設の整備を推進するなど、市街地の整備と運動した安全・安心なまちづくりが必要。</p> <p>⇒土砂災害対策等が必要。</p>
			<p>●協働を基本としたまちづくり</p> <p>⇒高齢化の進行やライフスタイル・価値観の多様化、地域コミュニティの希薄化等、地域を取り巻く社会情勢が変化している中で、持続的なまちづくりを展開していくには、市民や地域・事業者との連携が必要。</p> <p>⇒都市機能の誘導に向けた事業者との協働、自然災害に対応するための市民・地域との協働等、本市の課題解決に向けた協働の深化が必要。</p>